



抑制作における生理障害について

☆異常茎（メガネ）☆

JA全農ちば
営農支援部

1.生理障害

抑制作では高温、強日射によりさまざまな生理障害が発生します。

原因を把握し対策することにより収穫量増、収穫時廃棄削減、等階級の向上を目指しましょう。

2.異常茎（メガネ）

異常茎（メガネ）は灌水過多、強日射による不着果で強樹勢になった時、日照不足の時、窒素過剰によりホウ素の吸収が阻害された時、灌水不足や強日射ストレス等が原因で発生します。

対策① 第3花房開花（第1花房ピンポン玉大）

までは灌水を控えて強樹勢にならない

ように注意しましょう。過剰灌水により

窒素吸収が増えると強樹勢になり

芯止まりが発生しやすい傾向があります。



対策② 遮光塗布剤、遮光ネットを活用しましょう。

強日射により不着果が発生

します。結果、樹が暴れて

芯止りが発生しやすいです。



対策③ ホウ素入葉面散布をしましょう。

ホウ素は主に植物の細胞壁を構成する成分で、細胞分裂や受精を助けます。ホウ素の吸収が不足した場合にも芯止まりになります。



対策④ 灌水不足と強日射によるストレスを

軽減しましょう。 トマトはストレスが強過ぎると茎が細くなり、生長点が消滅します。灌水をこまめに行いましょう。

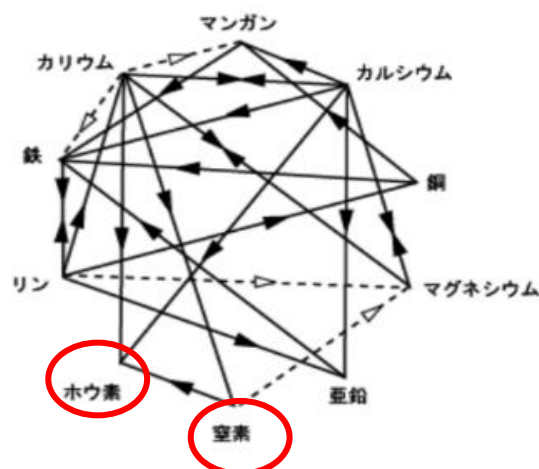
(例) 1週間に1回2時間灌水するよりも1週間に2回、1時間ずつ灌水を行う。
または1週間に3回、40分ずつ灌水等。

こまめに灌水をする事でトマトのストレスが減少し
樹勢も維持出来て、生長点の消滅を防止出来ます。



対策⑤ 土壌内窒素過剰に注意。

窒素過剰によりホウ素と拮抗し、ホウ素の吸収が阻害されて、芯止りが発生します。
元肥入れ過ぎ注意、追肥対応推奨。



図引用：農業協同組合新聞 第11回 施設土壌の土壌診断と土づくり

<https://www.jacom.or.jp/archive03/series/cat122/2010/cat122100428-9069.html> 作成：田代 (ver.1)